

EAD による情報検索システムの構築

五島 敏芳 京都大学総合博物館

抄録

本課題のなかで進めてきた研究には、アーカイブ資料としての研究資料・研究機関資料の情報共有のための研究も含まれる。その研究では、EAD というデファクト - スタンダードを適用して、情報検索システムを構築しようと試みてきた。ここでは、EAD によるアーカイブ資料の情報検索システムについて概説し、この研究の成果と展望を示す。

1. EAD の情報検索システム

アーカイブ資料の検索手段や情報検索システムとしては、EAD のデータを基本とすることが妥当である。この認識に至る経緯は、EAD 策定までの経緯でもあろうが、別のかたちで小稿筆者も体験した(後掲, [付録]参照)。小稿筆者が、日本ではじめてアーカイブ資料への EAD 適用に成功しそれを公表したのは 2002 年 5 月であったが、本課題の研究における「大学共同利用機関の歴史」に関する歴史資料ないし歴史的に重要な研究資料・研究機関資料への適用の動きへ加わったのは 2005 年以後である。本課題の研究においては、小稿筆者の取り組みとは別に、2003 年頃から、歴史的に重要な研究資料・研究機関資料の情報を交換・共有するために EAD の利用が有効だと気づき、関係調査を開始していた。小稿筆者の参加時に提案した EAD の利用は、異論なく受け入れられた。

2002 年以後、小稿筆者が取り組んでいたのは、(1)EAD の理解、(2)EAD データ実例の蓄積、(3)EAD データの構築手法の開発、(4)EAD データの基本

第1章 基盤機関アーカイブズの構築

的表現・配信方法の開発，であった。研究・実践の段階としても，EAD 発祥の地であるアメリカでの EAD 開発者や適用先駆者たちの行跡をたどる初步的内容から出発せざるをえなかったからである。2002 年末には EAD の第 2 版といえる 2002 版が登場し，XML に正式に対応した一方，タグの改廃があった。この仕様変更は，前述(1)～(4)の内容に大きく影響し，データ・各手法とも変更を余儀なくされた。加えて小稿筆者の所属における担当業務と国立大学法人化の影響で，ほぼ 1 年間の空白が起き，EAD の研究・実践は停滞する。再開は，2004 年後半からで，2005 年初には前述(3)・(4)について一定の確立を見た。後は，オンライン（コンピュータ上）でキーワードによる検索・抽出とその結果提示のあり方を含む EAD ベースの情報検索システムの設計・構築が，大きな課題として残っていた^[1]。2005 年は，小稿筆者らの研究成果を取り入れ日本の国立公文書館が EAD ベースの情報検索システムを含むデジタルアーカイブシステムを公開している。ほぼ同時期に，国立国語研究所も同所の研究資料に対する EAD ベースの情報検索システムを公開した。ただ，当時いずれも EAD データとして質的に正しくなく（EAD の文法的には誤りとは言えない），すでに EAD の普及した海外の EAD データと内容を異にしていた。EAD データを通して海外の研究資料・研究機関資料の情報の交換・共有をも視野に入れたとき，日本国内の EAD ベースの情報検索システムの先行事例は参考にならなかった。

もともと EAD 発祥の地の EAD データにならって取り組んできた小稿筆者と，偶然にも EAD 策定に関与した研究者と接触を持っていた本課題の研究は，EAD データの質的側面で一致でき，たとえばどの要素・属性を使用するか等の実務的規則を共有できた。小稿筆者が 2005 年度から 2006 年度に得た科学研究費補助金の支援^[2]により，2006 年には，すでに EAD の普及した海外の EAD データと情報を交換・共有しうる EAD ベースの情報検索システムが完成したのだ。

前述の小稿筆者らの EAD ベースの情報検索システムは，XML の EAD データを扱うため，EAD-XML 検索システムと仮称している。EAD-XML 検索システムは，いまのところ国文学研究資料館の公開データベース「史料情報共有化データベース」^[3]，「収蔵アーカイブズ情報データベース」^[4]，「伊豆菰

山江川家文書データベース」^[6]等で採用されている。

本課題の研究では、国文学研究資料館の「史料情報共有化データベース」を利用して、各大学共同利用機関等の研究資料・研究機関資料の情報共有（オンライン総合目録）を実現した。各機関における実践は別に紹介されるので、ここでは EAD-XML 検索システムと「史料情報共有化データベース」の概要を紹介する。

1.1. EAD-XML 検索システムの概要

広い意味でのアーカイブ資料の電子的検索手段は、次のように大きく

(1)・(2)の2つの部分から構成されると考える。

(1) 基本的表現・配信システム

(1-1) 目録全体の全文表示

(1-2) 目録各部分の誘導的表示

(2) 情報検索システム

(2-1) 特定のコレクションの検索

(2-2) 複数のコレクションの検索

(2-3) 複数の収蔵者のコレクションの検索

EAD-XML 検索システムの中心部分は、(2)に該当するが、検索結果一覧以外の表示には、(1)の基本的表現・配信システムを利用し、両者は一体的に稼働する。検索結果一覧の表示画面からは、(1-2)の詳細情報を表示する画面へ遷移し、そこから(1-1)の画面への切り替えることができる。他のページや、資料画像、資料（翻刻）本文、音声、動画映像、数値データ等などのデジタルオブジェクト（電子資料体）へは、別に画面が開かれて遷移する。(1)は、すでに提示された内容とほぼ変わらない^[6]ため、ここでは省略する。なお、(1-2)の画面において、1画面程度に情報を収める一方、他の表示へ遷移できるようにする際、HTML のフレーム機能は使用していない。引用の範囲をこえた著作権侵害の可能性や、複数収蔵者のアーカイブズ情報の公開代行や横断的検索の機能において EAD-XML 検索システムの範囲外のページへのリンクが発生する可能性があり、フレームページに不測の表示がおこらないとも限らないためである。

第1章 基盤機関アーカイブズの構築

電子的検索手段の情報提示でも、伝統的検索手段とおなじように、コレクションや主題の一覧といった索引類から導かれるほうがよい。キーワードを入力して検索を実行する画面が、最初に利用者の目に触れるとすれば、検索語の辞書機能が充実している必要がある。くわえて資料目録のデータが、検索語となりうる言葉を豊富に含んでいなければならない。索引類のページと誘導的表示は、辞書機能や情報量の不十分さを補い、不十分かもしれないキーワード検索の結果から利用者の失望を招かないようにする効果がある。

このように(1)を前提とすれば、(2)の最初に(2-1)の焦点をしぼった検索があげられることはうなずけよう。(1-2)の画面のなかからキーワード検索を実行すると、その検索結果一覧は、(2-1)(2-2)共通の画面構成で表示される。この検索結果一覧の表示に、アーカイブズの情報検索システムとしての工夫を凝らした。結果表示の情報は、資料または記述の標題、番号、記述レベル、年月日、数量、形態に限り、標題を見出しとした。検索要求に合致した結果には、前述の情報一式の標題の左へ赤色矢印を付して示すものとし、当該データのどの部分に検索語が出現するかまでの提示は省いた。この赤色矢印を付したことが、アーカイブ資料の階層的構造や脈絡の表現と関係する。結果データの上位の階層に記述があるばあい、その階層の数だけ各階層の記述から標題だけを抜き出し、インデントをもちいて階層的に表現した。当該データの上位の各階層の標題の表示により階層的な位置をあらわすことは、(1-2)の一覧表示・詳細表示でも実現していたが、この検索結果一覧の表示は、いわば(1-2)のある階層以下の一覧表示から検索要求にあう分だけ抜き出して表示したようなものだ。これが EAD-XML システムでの検索結果表示の標準となるから、利用者は求める資料の階層的な位置をつねに意識することになる。

検索結果一覧は、標題、資料記号、記述レベル、年代（西暦）で、昇順または降順に並べ替えることができ、「指定無し」で並び替えれば、もとの順序（各記述データの ID 順）へもどすこともできる。

この後、a) 結果を絞り込み新たな一覧を表示、b) 特定の結果の詳細を表

EADによる情報検索システム（五島）

(参考図) 検索結果例

ArchivesTisEe
東京大学総合図書館蔵書目録
 Online Open Catalog for Archival Materials
永久保存型紙質資料電子版総合目録

INTERNET SITE about "archivesTisEe" NUL Archives & Collections アーカイブス Arch. Databases Help

[英語メニュー](#) | [Start-up menu](#) | [EAD-XML検索システム Retrieval System: 詳細検索 Advanced Search](#) | [最新一冊 \(1999/7\)](#) | [List of collection titles \(100 at a time\)](#)

検索結果一覧 Search results

検索条件: [検索手段全体 Entire finding aid (写真研究|原稿 日)] AND [収蔵 Repository (高エネルギー|核融合|分子科学|湯川|一橋)]
 該当件数: 275/5 (118-130件)

>>
 表示件数

<< 6 7 8 9 10 11 12 13 14 >>

表示順: [] [] []

一橋大学研究所

- ←一橋大学経済研究所所蔵「都留重人名誉教授寄贈資料」: Finding Aid to the Papers of Tsunru, S. (Shigetou), 1912-2006; bulk 1924-2005
tsuru/23 series
- X. 都留重人・メモリアル・コーナーへ届ける物件 (2004/9/1受領).
 (1950/2004)
item
- ←一橋原稿Ⅰ:
 tsuru/23-1/X-1-11/ item
- (1)1945年12月21日 Kiraninによる木戸幸一の予備の通訳記(Personal and/or public documentsに記述あり)日本経済新聞社原稿4頁.
 O
- ←乙 雑 Miscellaneous,
 ←雑 Miscellaneous,
 ←ラファイ・サイエンス,
 tsuru/24-28-1/5/Z-5-1/15 item
- 本島、[政府打合せについて](1982/4/16).
 1982/4/16. (1982)
 tsuru/24-28-1/22/Z-5-1/22 item
- 日本電気常務取締役 船之原道行, コンピュータと管理社会,
 日本電
 tsuru/24-91/Z-5-9/14 item
- 出版局編集部 清水三有? , [改訂『生活のかたじけなく』企画変更について](6/6).
 6/6. O
 tsuru/24-107/Z-5-12/7 item
- 都留重人・野田謙一郎, [日本経済研究センター昭和39年度共同研究計画「国策長期資本移動の分析」原稿紛失の件について](9/1)(1967.8/25).
 1967/6/25. (1967)
- ←雑[日本経済学会連合].
 ←Mrs. Joan Robinson 招待関係,
 tsuru/24-220-5-26/Z-7-5/26 item
- 一杉哲也,[報告の日経について](1955/5/8).
 1955/5/8. (1955)

高エネルギー加速器研究機構史料室

- 機研記録写真
 青葉延長 Linear meter: 1.6m 数量 Extent: 49件Items
kek0018-inspho collection
- JNS-SOR-RINGの建設スライド写真
 青葉延長 Linear meter: 0.4m 数量 Extent: 6件Items
kek0057-insorr collection

京都大学基礎物理学研究所湯川記念史料室

- ←湯川秀樹史料 (仮)
 ←創造性研究会
 ←方法論研究会 1962~、創造性研究会、図形第議 1963, ZN、創造性研究所、
 (未設定) /8-1/c-024-10-090 item
- 財団法人日本創造性研究所設立の履歴、昭和三十八年七月十九日。
 1963年7月19日。(1963) 昭和。O 1 6R.
 (未設定) /1-1-12/E01 092 P01 (MT) item
- ←湯川秀樹史料 (仮) (公刊資料目録収録分) || Yukawa (Hideki) papers
 ←YHAI. RESOURCES HIDEKI YUKAWA (I).
 ←INTERACTION OF EL. PARTICLES I, 1934.
 (未設定) /1-1-12/E01 092 P01 (MT) item
- On the Interaction of Elementary Particles: 数物論演義原稿 [1934年11月17日].
 1934年11月17日。(1934) 1 1 R. (英訳ノ記載あり)。

自然科学研究機構核融合科学研究所核融合アーカイブ室

- ←市川芳彦 寄贈資料
 nifs-001-ichikawa-y/1 series
- 箱B310.
 (1980/1997) 1992. O 0.437 ダンボール1箱 (自筆原稿, コピー, 冊子).
 nifs-003-hayakawa-y/21/hayakawa-e-B301b-25 item
- ←早川幸男 寄贈資料,
 →箱B301b.
 1959.11.27. (1959) 1 厚装折込印刷物3枚).

<< 6 7 8 9 10 11 12 13 14 >>

これらの結果の利用については資料提供先へYh access them contributing the distributing institution.
 archivesTisEe EAD-XML 検索システム: About the 2007 National Inventory of Japanese Literature 国文学研究資料館
 問い合わせ/Questions? 著作権/Copyrights 利用規定/Conditions of Use
 Archived from: http://www.nacdl.ac.jp/ArchivesTisEe/ on 2006-08-07 by Internet Archive - based on: http://dx.doi.org/10.1000/1

第1章 基盤機関アーカイブズの構築

示し当該コレクションに対する再度の簡易検索または各部分の表示、c)選択した特定コレクションにかぎらない複数コレクションに対する検索、の選択肢があり、c)を選んだばあい、(2-2)へ画面が遷移する。

(2-2)の検索画面は、(2-3)のそれ、または詳細検索の画面を兼ねている。検索項目は、全文のほか、標題、年代、年代範囲、記述レベル、出所・作成、内容記述、名前、役職等、関係地、主題、関連資料、収蔵者の13である。それぞれの項目に、AND・OR・NOTのいずれかの条件を指定できる。(2-1)との違いは、検索結果一覧にコレクションのレベルまで上へさかのぼった標題まで表示され区切られる点である。

このEAD-XML検索システムは、EADデータ構築の利益や、アーカイブズ利用拡大の可能性を、資料収蔵者・管理者・利用者へ実感させるものと確信する。

1.2. 「史料情報共有化データベース」(第2期)の概要

国文学研究資料館「史料情報共有化データベース」は、2001年に国文学研究資料館史料館の提供データベースとして公開された。同データベースは、日本各地のアーカイブ資料の収蔵者それぞれが公開する資料の情報を互いに提供しあう共同集約の場であり、日本で最初にISAD(G)第2版に準拠した構造を持っていた。実は、前述のICA国際標準類を使用した「誤り」の直接の淵源でもある。ISAD(G)第2版の記述要素をそのままデータベースのフィールドとしたために、はじめコレクションの概要目録だけしか取り扱えない限界のあるアーカイブズの全国総合目録だった。

2006年、国文学研究資料館全体の情報システムの更新に際してのデータベース移行のとき、国立公文書館のデジタルアーカイブシステムと同様の商用アプリケーションソフトウェアが導入され、階層的にデータを扱うことのできる機能が加わった。これにより、コレクションよりも下のシリーズ、サブシリーズ、ファイル、アイテムといったレベルの記述データを入力編集し、適切に各上位の階層へ位置付けることができるようになった。

すべてのレベルの記述データから、コレクションごとにEADデータを出力する機能も備わり、前述のEAD-XML検索システムとシームレスに連

携する。「史料情報共有化データベース」へ蓄積された記述データは、公開指定したすべてにわたり EAD-XML 検索システムで検索可能である。

この「史料情報共有化データベース」の入力編集機能を使用するには、事前に編集ユーザ登録が必要だが、以下その登録が済んでいるものとして説明していく。

すでに国文学研究資料館の調査によって記述データ（資料情報）が登録されていれば、自らの収蔵資料の一覧が示されるはずである（未入力状態のばあい一覧表の列見出しのみ表示される）。冒頭の「カテゴリ」として、登録されている文書館等の資料収蔵者名が表示され、検索や表示のための web フォームやコンボボックスの下に、「カテゴリアイテムを表示しています」として、収蔵資料の一覧が表の形式であらわれる。収蔵資料の一覧表の列（表示項目）は、つぎのとおり：種別、タイトル、サイズ、更新日、編集状態（公開・非公開の別）、資料群記号、管理番号、機能（編集・複写・EAD；最後の「EAD」のリンクアンカが EAD データ出力の機能）。収蔵資料の一覧に対しては、当該一覧表上部にあるフォームやコンボボックスを使った「リアルタイム検索」等により、目的の対象へ絞りこむことができる。

ここで資料収蔵者名の左脇にある「カテゴリ情報」のリンクを選べば、資料収蔵者自体の情報を編集できる。資料収蔵者自体の情報では、登録情報と所在情報の入力が必要である。

収蔵資料の一覧から、いずれか 1 つを選べば、そのコレクションの内部の記述データの一覧が表示される。シリーズの概要記述があるならそのシリーズの数だけシリーズの標題が、またはシリーズを設けていなくてアイテムの記述データが列挙されるならばアイテムの標題が、さきの収蔵資料の一覧と同じような表形式であらわれる。シリーズの下にサブシリーズを設けていれば、同じようにサブシリーズの一覧表があらわれる。はじめに資料収蔵者が表示されていた、検索や表示のための web フォームやコンボボックスの上の情報表示部分には、いまどのレベル（記述レベル）のデータを編集しているか、その当該記述データの標題にいたるまでの各上位の標題が階層的 position（深度）として表示される。その左脇の「カテゴリ情報」

第1章 基盤機関アーカイブズの構築

のリンクを選べば、当該の記述データを編集できるし、表形式の一覧のなかのいずれかの記述データの機能の列の編集のリンクを選べば、当該記述データの直下にある、選択した記述データの内容を編集できる。

コレクション以下の記述データの情報項目は、基本的に「史料情報共有化データベース」公開当時と変わっていない。アーカイブズ記述国際標準 ISAD(G)第2版に準じた記述要素に一部の情報項目を加えた内容である。ただし編集画面としてあらわれる web フォームは、記述データ内の優先順位等を考慮して入力項目を配した。ISAD がマルチレベル記述を可能にしていることにならない、どの記述レベルでも基本的に同じ編集画面となるが、コレクションとシリーズ等の資料小群以下とで表示する項目を変えた。

小群以下のフォームは、コレクションのそれよりも項目数が少ない。それでも項目が多いようにみえるが、小群以下の記述レベルでは、すべての項目にデータを入力する必要はない。特別にくわしく情報を示さなくてはならない場合を除き、下位の記述レベルに向かうに従い情報量は基本的に減っていくはずだ。

ある階層以下のデータを一括で別の位置へ移動することもできる。親組織からの新たな情報の提供があったり資料の詳細の分析が進んだりして、以前の編成を修正したいこともあるだろう。そのばあい、編集対象としているデータの登録先を変更することで、階層的な位置を変更することができる。

こうして編成の作業を終えれば、あとは編集が完了したデータを公開に設定する。特定の部分を非公開に設定することもできる。こうして、まず「史料情報共有化データベース」において資料群の情報を公開できる。つづいて EAD データを XML のテキストファイルでダウンロードすることもできる。特にダウンロードしなくても、そのままにしておけば国文学研究資料館の EAD-XML 検索システムの横断的検索機能の検索対象として自動的に登録される。非公開に設定した部分のデータは、EAD データとして出力もされないし検索対象となることもない。

参考表: 「史料情報共有化データベース」入力項目

| 収蔵者 | コレクション | シリーズ等以下 |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| (登録情報) | 登録情報 | 登録情報 |
| 公開・非公開 [選択], 収蔵者記号 (必須), 収蔵者名 (必須), 収蔵者名ヨミ (必須), 収蔵者名英文 (必須), 収蔵者内部組織名, 収蔵者内部組織名英文 (必須). | 登録先 (必須) [選択], 公開・非公開 [選択], 記述レベル [選択], 識別記号 (必須), 資料記号 (必須), 標題 (必須); 検索手段: 標題 (英文とも), 発行年代, 同標準化コード, 符号化年代, 同標準化コード, 改変事項内容; 前付け (凡例等). | 登録先 (必須) [選択], 公開・非公開 [選択], 記述レベル [選択], 識別記号 (必須), 資料記号 (必須), 標題 (必須). |
| 収蔵者所在 | 概要情報 | 概要情報 |
| 都道府県 (必須), 郡市町村名, 地名等, 郵便番号, 電話番号, ファクシミリ番号, 連絡先メールアドレス, ホームページ. | 年代: 上限 (西暦), 下限 (西暦), 主年代, 年代注記; 出所・作成; 規模: 書架延長 (m), 数量 (点/件), 物的状態注記; 要約; 使用言語. | 容器情報: 容器の種類, 番号; 年代: 上限 (西暦), 下限 (西暦), 主年代, 年代注記; 出所・作成; 規模: 書架延長 (m), 数量 (点/件), 物的状態注記; 使用言語. |
| (利用案内情報) | 利用者のための情報 | 利用者のための情報 |
| 交通, 開館日時, 利用資格・手続き, 設置年・経緯, 関係参考情報, 収蔵資料概要, 収蔵資料検索手段, 未公開資料存否, 担当連絡先. | 利用条件, 使用条件, 望ましい引用形式, 利用可能な代替形式, 関連資料, 原本の所在, 他の検索手段, 出版物, 物的特徴および技術要件. | 利用条件, 使用条件, 関連資料, 出版物, 物的特徴および技術要件. |
| — | 索引事項 | 索引事項 |
| | 標目: 人名, 家名, 団体名, 役職等, 地名, 主題, 名称, 機能, ジャンル. | 標目: 人名, 家名, 団体名, 役職等, 地名, 主題, 名称, 機能, ジャンル. |
| — | 管理的情報 | 管理的情報 |
| | 入手源, 伝来, 追加受入情報, 評価選別等スケジュール | 入手源, 伝来, 追加受入情報, 評価選別等スケジュール |

第1章 基盤機関アーカイブズの構築

| | | |
|----------|----------------------------------------------|-------------------|
| — | ル, 配架. | スケジュール, 配架. |
| | 出所の履歴／経営の歴史 | 出所の履歴／経営の歴史 |
| — | 履歴, 略年表等: 見出し, 本文[「 」で日付と事項を区切り, 改行で年表の1行に]. | 履歴. |
| | 範囲と内容 | 範囲と内容 |
| — | 整理・編成, 範囲と内容. | 整理・編成, 範囲と内容. |
| | 注記 | 注記 |
| (記述制御情報) | 注記. | 注記. |
| | 記述制御 | 記述制御 |
| 更新日付. | 資料操作情報, 入力者, 記述担当者, 更新日付. | 入力者, 記述担当者, 更新日付. |

この入力編集機能は, 1画面の web フォームであり, 記述データ 1つしか対象にできない. 各編集ユーザによる一括自動処理での記述データ登録(一括登録)はできないが, データベース管理者による一括登録は機能として存在する. また, 同じくデータベース管理者によって独自に作成した EAD データを直接に登録することもできれば, 独自に web 上へ公開している EAD データを自動で収穫することもできる(EAD データの所在を示す URL を URL リストへ登録する必要がある). ただ, いずれも国文学研究資料館のセキュリティポリシーや同データベースの運用体制の問題から, 対応できていない. 改善のため同館には積極的に協力していきたい.

1.3. 研究資料・研究機関資料への適用

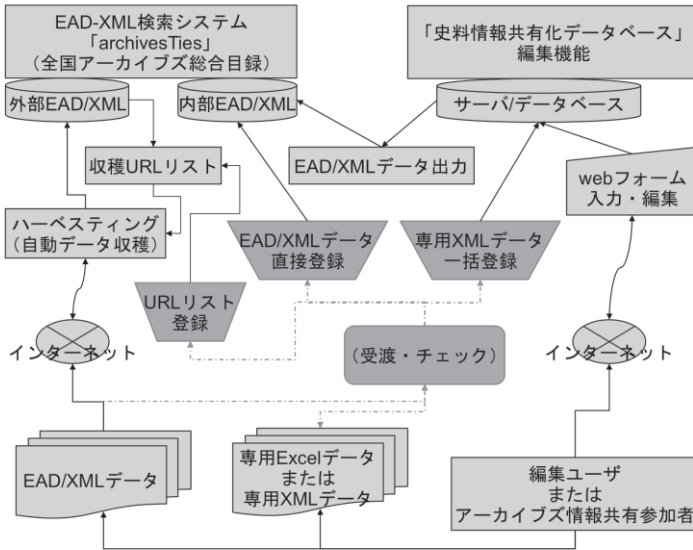
EAD の利用は受け入れられたものの, 具体的にどのように資料情報を電子的に符号化していくかは, これも試行錯誤の過程であった. 単に既存の記述データを検索手段とするだけでなく, 研究資料・研究機関資料の整理・編成の手法にまでさかのぼっての再検討を要したからである.

分量が多くても物的に分けられる最小単位(1冊とか1枚とかの単位)で通し番号のような ID (識別記号) を付け記述データを採用していたり, 分量が多く人手もないために収納容器(文書箱)の単位で「～関係」という

EAD による情報検索システム（五島）

（参考図）EAD-XML 検索システムと「史料情報共有化データベース」の関係

© 2009 GOTOH, Haruyoshi



情報だけ採り中身を空けていなかったり、と既にさまざまな取り組みが存在した。これらの研究資料・研究機関資料の保存に携わってきていた人たちの多くは、それぞれの研究分野の専門研究者であり、ボランティアに参加していた。各資料の意味内容を理解できてしまうために、その意味内容によりまとまりを構成したほうが利用しやすいと考えたり、その意味内容から検索時にひっかかるようなカギ（鉤、鍵）となる言葉の抽出に注力したりしていた。総じて、はじめ〈出所〉や〈コレクション〉という概念が了解されていなかったのである。

無理もないことで、管見の限り、アーカイブ資料管理研究や図書館情報学の世界で、公刊された研究情報以外の一次資料 *primary sources* について、どのように取り扱うべきか、議論が深まっていなかった。参照可能な日本語文献の乏しさが、さまざまな試行錯誤の取り組みを生んだものと想像する。

第1章 基盤機関アーカイブズの構築

まず、眼前に存在する研究資料・研究機関資料の出所やコレクション単位を、どのように把握するかは、大きな議論となった。アーカイブ資料は、それが生み出され活用され管理され伝存した時点・場所、それぞれの当事者による操作の痕跡であることが、証拠としての大きな意味を持つ。反論として、直接に想定される利用としては、普遍性を持つ資料内容や、発生時点の脈絡（資料の語る歴史的意義、登場時の画期性）だけであろうから、資料各個が保存され、想定される利用の範囲で検索できさえすればよい、という指摘もあった。

しかし、アーカイブ資料としての証拠性、〈その資料が本物であること〉を説明する脈絡の情報は、

- その資料実物の存在だけではなく、それを誰が作り誰が残り誰が伝えたか等のすべても付随すること；
- 直接の証拠的価値だけでなく、多様な利用可能性を含む情動的価値にあること；
- そのために出所やコレクションという概念や単位が必要であること；
- EAD自体がそういった概念を前提にしている、その単位なしにEADデータを作成できないこと；

を理解し、出所やコレクション単位の設定を了解したのである。かくして出所やコレクション単位は、つぎのように設定できるものとした。

- (a) 資料（群）を持ち込んだ（寄贈・寄託した）者・組織体を出所とする。
- (b) 持ち込んだ者・組織体が、もともと作成し管理し伝えたものでなく、どこか別のところから収集したものだとしても、持ち込んだ者・組織体による人工的収集資料というコレクションの単位とする。
- (c) 出所が同じで、数回に分けて持ち込まれた資料（群）は、分量や資料内容により、分けて持ち込まれたときの単位をコレク

ションとしてもよいし、後で1つに合わせてコレクションとしてもよい。

- (d)資料（群）の分量が多すぎるばあい、出所の単位をくずさなければ、分割してコレクションの単位を設けてもよい。
- (e)持ち込まれた資料（群）が部分で、同じ出所に他の関連する資料（群）が存在し、いまは不可能だがいずれ入手できる可能性があるばあい、現在の単位をコレクションとしてもよいし、後にその関連する資料（群）を合わせてコレクションとしてもよい。
- (f)資料（群）の実物の形状・特徴（写真や図面など）・保存上の都合により、出所の単位をくずさなければ、分割した単位をコレクションとしてもよい。

このように、ゆるやかに了解して、コレクションの単位とした。コレクションの下位のシリーズとの境界は、かなりあいまいであるが、資料実物を整理・編成する者が、かならずしも資料内容に詳しいとは限らない可能性も考慮すれば、現実的選択といえる。

つぎに、そのシリーズ以下の設定についても、問題となった。大きくは、資料内容で分類するような編成がよいか、資料実物やその収納状態をそのまま反映するのがよいか、である。前者の手法は作成以後の管理秩序の復元と関わり、後者は現状記録により受入直前の管理秩序にさかのぼりうる情報を残すことに関わる。これについては、各機関のアーカイブズの判断に任せるものとした。

この結果、EAD データを構成する記述データの単位・質は、まちまちとなった。それでも、EAD の情報要素に対応した「史料情報共有化データベース」の入力項目を用いる、またはそれにマッピングした EAD データをつくることは、了解されていたので、検索時にまったく次元の異なる記述データが検索結果として返されるということはなく、EAD-XML 検索システムの結果表示の特性から、それぞれの検索結果の記述データからは記述レベルの上下やレコード前後の脈絡を確認することができた。

第1章 基盤機関アーカイブズの構築

EAD ベースの情報検索システムの採用は、研究資料・研究機関資料の情報共有の初歩的内容を実現できた、といつてよい。

2. 課題と展望

EAD ベースの情報検索システムにより研究資料・研究機関資料の情報共有を実現に導いてきたといえるが、まだ課題は多く残っている。実践をともしないつつ進められてきたとはいえ、研究のレベルでの進行であるから、実用性と持続性のてんに不安定な要素がある。以下、課題と展望を記して、小稿のむすびとしたい。

2.1. 課題：EAD データ作成と、情報検索システムのサーバ

EAD データ作成は、「史料情報共有化データベース」の web フォームを使って入力を進めれば、たしかに可能ではある。ただ、記述データ作成を、つねに web の使うことのできるオンライン環境で実施するとは限らない。じっさいスタンドアロンの市販データベース管理システム（FileMakerPro 等）を用いて、記述データの入力を進めているところは多い。

本課題の研究や関連する研究においては、市販データベース管理システムに直接 EAD データを出力できる機能を追加し、それを実用しているところもある。小稿筆者やその研究グループでも市販応用ソフトウェアのマクロ機能により EAD データ出力のツールを作成したこともある。これら EAD データ出力ツールによる EAD データは、「史料情報共有化データベース」による EAD データと互換性がある。もともと、小稿筆者らの研究してきた EAD データの形式にあうように「史料情報共有化データベース」の EAD 出力機能を設計したため、当然であり、すでに EAD-XML 検索システムへ登録し検索できることも確認している。

しかし、前述のとおり「史料情報共有化データベース」（EAD-XML 検索システム）への登録の体制が整備されていない。積極的に国文学研究資料館への協力を表明し実行していくとしても、即時の改善はむづかしいと予想する。この課題については、つぎに触れる。

さしあたり EAD データ作成が各所で実施されていくとき、気を付けなければならない点がある。EAD データは、その文法を定めるものが DTD

からスキーマへ変わりタグ・属性だけでなくタグ・属性のなかの値も一部について制御が可能になったとはいえ、柔軟な書き方が許容されている。そのために資料の特質にあわせて、必要なタグ・属性を追加したり、不要なタグ・属性を省略することができる。各所の資料の特性にあわせて追加・省略をかさねたとしても、現在 EAD-XML 検索システムで使用できる EAD データの形式と共通にしておくことは、今後の資料情報の交換・共有に必要である。EAD の版が上がったときには、それに対応し、海外の EAD データともその形式の同期をとる必要がある。

定期的に EAD データの形式については、現実の会合を持って調整していくこと、その会合の維持が、課題といえよう。

もう 1 つの大きな課題は、EAD データを機関横断的に検索し資料情報の交換・共有を実現する EAD ベースの情報検索システムのサーバの維持にある。国文学研究資料館では現在、「史料情報共有化データベース」

（EAD-XML 検索システム）を技術的に維持していく人材がいない（その重要性を在職時に小稿筆者が館員へ伝えきれなかったためでもある）。いくつかの機関では、国文学研究資料館の EAD-XML 検索システムを収蔵資料検索に実用している¹⁴が、そういった利用の存在やそのサービスの重要性が高く評価されていることも伝わっていない。そういった評価を伝える努力を続ける一方、代替のサーバの設置も視野に入れておく必要がある。

その代替サーバは、もちろん現在の EAD-XML 検索システムで使用している商用ソフトウェア（Infocom 社製 InfoLib および OpenText）の購入を機関の情報システム導入に合わせて検討してもよいが、フリーソフト導入の可能性もありえる。たとえば、2008 年に国際文書館評議会 ICA みずからが開発し公表した ICA-AtoM は、ICA の国際標準類を記述データの情報要素とし、かつ情報検索システムとしての制御情報を加え、EAD データの入出力にも対応した（2009 年時点で、一括自動処理は未対応）¹⁵。また、たとえば、イリノイ大学アーバナ-シャンペーン校図書館・文書館等を中心に開発した Archon は、アメリカ-アーキビスト協会 SAA と協力して開発・更新されているらしく、EAD・MARC・CSV 各データの入出力にも対応している（一部、一括自動処理にも対応）¹⁶。こういったフリーのパッケージ

第1章 基盤機関アーカイブズの構築

ジを日本語化するような研究も今後、日本のアーカイブズの世界に求められると同時に、現実には代替サーバとしての導入を検討する必要がある。

とはいえ、専用サーバの維持には、人手も経費もかかる。現実的に EAD データの公開を進めるには、作成した EAD データの web 上への公開を機関の既存の情報システムのなかで実施することが、最初の一步となる。もし、みずから web サーバを利用できる環境になれば、比較的組織体力のある機関が公開を代行することも考えられる。また、総合研究大学院大学が基盤機関の EAD データを集約し、その XML ファイルを web サーバ下に置く、というあり方も選択肢に入ってくる。

かかる具体策を実施し、EAD データの URL リストを国文学研究資料館の「史料情報共有化データベース」（EAD-XML 検索システム）へ登録してもらったり、XSLT スタイルシートを用いて冊子型資料目録の電子版のような HTML ファイルをも同時に web サーバへ載せて資料情報の存在を知ってもらったりすることが、研究資料・研究機関資料の情報交換・共有に結びつくものとする。

2.2. 展望：海外への EAD データ提供

web 上への EAD データの公開がなければ、展望はだいぶ開けてくる。国際的に EAD データを収蔵するようなアーカイブズの情報検索システムは、海外に存在する。また、各研究のコミュニティのアーカイブズにも、EAD ベースの情報検索システムを持つところがある。そこへ EAD データや EAD データから変換した資料目録 HTML ファイルを提供し、存在と重要性を知ってもらい、資料実物の利用促進を目指していくのがよい。資料画像や歴史的映像の電子的データも公開可能な（しかし出版物等への再利用は不可能な）技術的措置を施したうえで web サーバへ載せ、EAD データや資料目録 HTML ファイルからリンクできるようにするデジタルアーカイブ化も、助成金獲得等の機会に積極的に進めるほうがよい。これらの実績をもとにして、機関ひいては文教政策へ資料保存の重要性と経費措置を求めていくことができよう。

海外からのアクセスの可能性には、現在の EAD データでは不十分なところもある。少なくとも、コレクションの概要（標題、要約、規模）程度

は、英文並記の必要がある。日常の資料管理の業務をかかえての同時進行には困難をともなうが、たとえば詳細な 1 点レベルでの整理や記述データ作成より、コレクションの全体像の把握にエフォートを割くような資料管理上の優先順位に工夫を加えることで、まったく実現不可能ということはないと想像する。

海外からのアクセスへの対応のしかたは、各研究のコミュニティによりまちまちでありえる。その方法の情報を各機関のアーカイブズ同士が互いに参考にしあえるような、情報交換の場は、この側面においても求められよう。

本課題の研究がもたらした研究資料・研究機関資料の情報共有の成果は、かならずそれらの資料保存の取り組みの種子となる。その種子を育てふたたび種子として実らせる循環を確立するため、アーカイブズ関係者の現実の結びつきを継承していかなくてはならない。

謝辞

本課題（略称「大学共同利用機関の歴史とアーカイブズ」）の関係各位に感謝申し上げます。私事ながら、本課題に参加することで、伝統的アーカイブ資料以外のアーカイブ資料の存在とその内容を実感でき、さらにそれら歴史的に重要な研究資料をアーカイブ資料として保存する仕事に携わることができました。ありがとうございました。

注記

[1] その情報検索システム上での多様な検索手段を実現するために必要な、典拠レコードの制御システムは、日本では今も未解決の、より大きな課題として残っている。

[2] 科学研究費補助金・若手研究（A）「アーカイブズのデファクト国際規格 EAD による検索システムに関する基礎的研究」（研究代表者：五島敏芳・課題番号：17680022，平成 17 年度～平成 18 年度[2005/2007]）。

第1章 基盤機関アーカイブズの構築

[3] 大きく2つの部分に分かれ、それぞれつぎのURLを参照のこと。（コレクションの概要の閲覧・検索）<<http://base1.nijl.ac.jp/~isad/menu.html>>，
（コレクションの詳細レベルの閲覧・検索）<<http://base1.nijl.ac.jp/~eadfa/>>.

[4] EAD-XML 検索システムを採用した検索可能なデータベースは、検索ができなかった以前のデータベースにはあった収蔵資料一覧や地域別一覧等の画面がまだ用意されていない。つぎの簡易検索画面から検索・閲覧の利用できる。

<<http://base1.nijl.ac.jp/~eadfa/db/internal/ocl-JALIT-DHD/stdSearch.htm>>.

[5] 以前は各記述レベル単位の閲覧だけだったが、つぎのURLからは、検索が可能である。

<http://base1.nijl.ac.jp/~eadfa/db/internal/EGAWA-FNDN/egawa-DB_top.htm>.

[6] 五島ほか 2005，丸島和洋執筆担当部分。当時の表示画面に、(1-2)の表示画面の左側にある目次（ナビゲーションパネル）へ検索フォームとボタンが追加された。

[7] たとえば、一橋大学経済研究所資料室では、同研究所初代所長のコレクション「都留重人名誉教授寄贈資料」の検索手段として、国文学研究資料館「史料情報共有化データベース」およびEAD-XML 検索システムを活用している

（<http://www.ier.hit-u.ac.jp/library/Japanese/TSURU_shigeto/index.html>）. 本課題の研究でも、たとえば自然科学研究機構核融合科学研究所核融合アーカイブ室が「史料情報共有化データベース」およびEAD-XML 検索システムを活用した所蔵資料検索を準備している（簡易検索：

<<http://base1.nijl.ac.jp/~eadfa/db/internal/NIFS-ARCH/stdSearch.htm>>）.

[8] つぎを参照のこと。<<http://ica-atom.org/>>.

[9] つぎを参照のこと。<<http://www.archon.org/>>.

以下は、小稿で参照した文献である。

- アーカイブズ・インフォメーション研究会編訳[ア研編訳]. 『記録史料記述の国際標準』. 札幌，北海道大学図書刊行会，2001年.

- 五島敏芳. 「日本の記録史料記述 EAD/XML 化と記録史料管理: 記録史料管理過程における EAD 利用の位置をめぐって」. 『情報知識学会誌』. 第 12 巻 4 号, 2003-01.
- 五島敏芳. 「日本のアーカイブズ管理における EAD・EAC:XML による実践の可能性」. 『情報知識学会誌』. 第 14 巻 3 号, 2004-07.
- 五島敏芳, 丸島和洋, 戸森麻衣子, 村越一哲, 岩熊史朗[五島ほか]. 「アーカイブズの電子的検索手段の構築・表現」. 『記録と史料』. No. 15, 2005.
- 国際アーカイブズ評議会建築記録部会編（安澤秀一訳）. [ICA 編・安澤訳]. 『建築記録アーカイブズ管理入門』. 東京, 書肆ノワール, 2006 年.
- 国文学研究資料館史料館編. 『アーカイブズの科学』. 東京, 柏書房, 2003 年.
- 安澤秀一. 「エンコーデッド アーカイヴアル デスクリプション EAD: SGML/XML の応用形として」. 情報処理学会『研究報告人文科学とコンピュータ』. 51-3, 2001-07-13. (埼玉).
- Ann Pederson ed. *Keeping Archives*. (1st ed.,) Sydney, Australian Society of Archivists Incorporated, 1987.
- Daniel V. Pitti. [D. V. Pitti]. "Encoded Archival Description: An Introduction and Overview". *D-Lib Magazine*. Vol. 5, No. 11, 1999-11. URL.
<http://www.dlib.org/dlib/november99/11pitti.html>
- Daniel V. Pitti & Wendy M. Duff. ed. *Encoded Archival Description on the Internet*. New York, The Haworth Press, Inc., 2001.
- International Council on Archives (Peter Walne ed.). [ICA] *Dictionary of Archival Terminology: English and French*. 2nd ed., Munchen; New York; London; Paris, K.G. Saur, 1988. (ICA handbooks series Vol. 7.)

第1章 基盤機関アーカイブズの構築

- Michael J. Fox, Peter L. Wilkerson, Suzanne R. Warren. ed. [M. J. Fox, et al.] *Introduction to Archival Organization and Description*. The Getty Information Institute, 1998. URL. [<http://www.getty.edu/research/conducting_research/standards/introarchives/>](http://www.getty.edu/research/conducting_research/standards/introarchives/)
- Steven L. Hensen. ed. [S. L. Hensen. ed.] *Archives Personal Papers and Manuscripts: A Cataloging Manual for Archival Repositories Historical Societies and Manuscript Libraries*. 2nd ed., Chicago, Society of American Archivists, 1989.
- Steven L Hensen; Society of American Archivists. [SAA] *Describing Archives: A Content Standard (DACS)*. Chicago, Society of American Archivists, 2004.